

令和6年度 学校評価シート

青梅市立吹上中学校

<学校経営方針の重点>

- 1 確かな学力の向上 (知)
- 2 豊かな心育成 (徳)
- 3 健やかな体の育成 (体)
- 4 地域に根ざした学校づくりの推進

「評価」は「本年度の重点」や「具体的な方策」について  
 A：達成できた B：ほぼ達成できた  
 C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策	評価	分析結果	改善策	学校関係者評価記入欄		学校の見解と今後の方向性
							評価	コメント	
確かな学力の向上	基礎的・基本的な学力の向上と発展的な学習を図り、個性と創造力豊かな人を育成する	個に応じた学習指導の充実に向け、きめ細かい指導を徹底する。また、指導方法を工夫し授業改善を図る。	めあて、課題、まとめ、振り返りを適切に設定した授業を行い、生徒の主体的な学びを促す。	B A:26.7 B:66.7 C:6.6	教師主導の授業が見受けられるので、生徒同士の対話を取り入れるとよい。まとめ、振り返りの時間が設定できなかった。	生徒の活動時間を増やすような授業改善を進める。一単位時間の授業スタイルを確立していく。	B A:16.7 B:83.3	・最終ページの評価についての判定基準は市内の中学校において共通のものなのでしょう。 ・全体的に見て、いずれの項目もB判定の「ほぼ達成できた」との評価が得られたことはとてもよい。 ・試験前は勉強しながら学校へ行く子が多数見られた。昨年に比べ多かった気がします。 ・生徒の教育についてはインプットのみならずアウトプットがこれからの時代では重要です。対話(ダイアログ)の時間は取り入れていただきたいと思えます。 ・ICT機器の活用は今後ますます必要性が高まると思われませんが、一方で使い方を間違えると犯罪や詐欺、人の心を傷つけるなど、大変怖い側面もあります。生徒さんが誤った使い方をすることがないようにご指導をお願い致します。 ・項目「確かな学力の向上」そのために経営目標として「個に応じた学習の充実に向け、きめ細かい指導を徹底する。また、指導方法を工夫し授業改善を図る。」とあります。今年度の先生方の評価でうかがえることは、「生徒の良い点や可能性を見つけ、伸ばす指導に向けての授業改善」に全教員が取り組んだこと(一生懸命)がわかります。すばらしいことです。このような取り組みが「全国学力学習状況調査」での選択式回答で全国平均を上回ることに繋がったと確信します。しかし、短答式、記述式の解答率が全国、東京都の平均を下回ったことは、次の指導項目の改善が求められます。それは生徒の全体的な学びについての指導法の改善が求められます。具体的には、各教科等の学習において、生徒が学習における課題を意識し、その課題に対しての仮説(予想)を立て、その仮説(予想)に対して生徒それぞれが解決方法を示し、それを学級集団で話し合い、その結果をもとに集団で解決していく課題解決学習です。この点の指導法について教師集団で検討してはいかがでしょうか。	・基準は吹上中独自のものです。 ・ご指摘のように、現在の教育は「教師からの教え」を理解するだけではなく、得られた知識を用いて生徒が自ら課題を見つけ、その解決(改善)に向けて見通しを立てるとともに、他者との意見交流を通して自らの考えを再構築し、自分なりの答えを導き出すことが求められています。全国調査で記述式の解答率が低いのは、本校生徒に「知識の活用法」に課題があるからと思われれます。今年度1,2年生の総合的な学習で相互交流(発表会への参加)を行い、意見交換をするなど、工夫した取り組みを行いました。それぞれが刺激しあうことで、自分たちの取り組みを振り返りながら主体的な学びの向上につなげています。 ・学びにおける基礎、基本の習得は本校生徒の大きな課題ではありますが、知識の活用に向けてもしっかり取り組んで参ります。
			生徒が自分の考えを表現したり、他と比べたりしながら、自分の考えを再構築する場面を設定する。	B A:20.0 B:80.0	自分の考えを表現する機会はあるが、再構築の時間が取れなかった。	対話学習後に再構築の時間を入れるか、宿題にするなど工夫していく。	B B:100		
			基礎的・基本的内容を繰り返し行い、粘り強く学習する態度を育むため、ICT機器の活用、課題設定の工夫など、生徒が主体的に学習する意欲を育む。	B A:40.0 B:53.3 C:6.7	ICT機器の活用については今後も研修の必要を感じる。	66	B A:33.3 B:66.7		
			生徒のよい点や可能性を見つけ、伸ばす指導に向け、授業改善を行う。	B A:53.3 B:46.7	生徒の力を伸ばすため授業改善に取り組んでいる。生徒への声掛けに工夫を感じる。	生徒へのアプローチを工夫することで、学習意欲の向上を図る。	B A:66.7 B:33.3		

豊かな心の育成	互いの人格を尊重し、いじめの根絶を目指すとともに、思いやりと規範意識のある人を育成する	いのちを大切にす 心の教育を推進し、 いじめの根絶を目指 して、思いやり、認 め合い、支え合う指 導を充実させる。	学校いじめ防止基本法 に則り、いじめアン ケートを活用し、いじ めの未然防止・早期発 見・解決を図る。	A A:73.3 B:26.7	いじめアンケート後の 対応をしっかり行 うとともに、日頃 より生徒との会話 を大切にすること で相談しやすい環 境をつくること ができた。	学校いじめ対策委 員会を中心に、い じめの早期発見、 早期対応を進めて いく。	A A:83.3 B:16.7	・この「豊かな心の育成」の項目において、互いの人格を尊重し、いじめの根絶を目指すとともに思いやりといのちを大切にす 心の教育を推進するための方策として、いじめアンケートを活用し、いじめの未然防止、早期発見、解決を図った との評価がA判定となった点はすばらしい、 ・今後も生徒さんが、先生方に悩みや心配事などを相談しやすいように良好な信頼関係を築き、寄り添っていただけたら ありがたいです。 ・3つの項目で「C」評価6.7%の先生方がいらっしゃいます。 その先生方から具体的な話しをお聞きして、改善策を立てていただくことが大切です。このようにして「豊かなこころの育成」についての吹中の自信を持った取り組みを育成していくことが大切です。 ・今年の1年生は朝元気がなく、挨拶しても返ってこないことが多数あった。2.3年生はいつも元気に挨拶してくれました。	・いじめ問題については根絶を目指し取り組んでいます。アンケートの実施、生徒観察など、教師が生徒の変化を適切に感じ取ることで早期発見、早期対応を行っています。今後も教職員一丸となって取り組んで参ります。 ・今年度も生徒会を中心に「あいさつ運動」を行うなど、挨拶指導を行いました。来客の方よりお褒めの言葉も多数いただいています。挨拶は社会に出た時の基本として、次年度も引き続き生徒とともに取り組んで参ります。 ・昨年より評価が下がったことについては、これからも生徒の健全育成に向けてしっかりと取り組んでほしいとの強い願いと受け止め、吹上中学校の生徒一人一人のより良い成長に向けて「豊かな心の育成」を図って参ります。
			規範意識の醸成、あいさつの励行、礼儀作法の徹底を図り、生徒の社会性を育む。	B A:60.0 B:33.3 C: 6.7	生徒は挨拶をしっかりと行うとともに規範意識も育まれていると感じる。	教師から挨拶するなど、一番身近な大人が範を示すことで、生徒の意識を向上させたい。	B A:66.7 B:33.3	・「命を大切にす こころの教育を推進し、いじめの根絶を目指す。」「という本年度の重点の中で「いじめ防止、早期発見、解決を図る」を吹中の先生方は73.3%の皆様が「A」と記されたことはとてもすばらしいことです。学校運営協議会でも平岡校長先生からお聞きしています。これからもどうぞよろしく願い申し上げます。	
			「特別の教科 道徳」の指導に向け、広い視野から現在の課題をとらえ指導につなげることで、「こころの教育」を充実させる。	B A:40.0 B:53.3 C: 6.7	いろいろなテーマを題材に「こころの教育」を進めた。	社会の動向に注目することで、より広い視野から現在の課題をとらえ、指導に生かす。	B A:16.7 B:83.3	・行事等で生徒会が上手に進行できていると感じました。 ・体育祭で吹中の生徒が目標を持ち、その目標に向けて自主的、積極的に活動している姿を拝見しました。とてもすばらしいことだと私は受けとめています。分析結果の「教員に余裕がなく、生徒に任せる場面が設定できなかった。」については、学校行事は学校の教育課程です。ですから、教職員で任せることは何かを議論し、明確にしてから生徒会を通して話し合えれば、現在の吹中生だと明瞭に先生方の願い「責任感、主体性」を受けとめてくれると確認します。 ・教員に余裕がないとありますが、職場環境の向上が必要なのではないでしょうか。 ・吹上中もけっして生徒数が多い学校ではないと思いますので、主体的に考えることができる指導をお願いします。	
			様々な教育活動を通して感動する心を育てる環境づくりと場を設定する。また行事や生徒会、委員会活動を通してリーダーの育成を図る。	B A:53.3 B:40.0 C: 6.7	小集団で経験を積みませるなどしてリーダーの育成に向け取り組んだ。教員に余裕がなく、生徒に任せる場面が設定できなかった。	生徒の責任感を培い、リーダーの育成を図るためにも、生徒が主体的に活躍する場面を増やしていく。	B A:50.0 B:50.0		

健康や体力に関する意識を高め、健康の保持増進に向けた資質や能力をもった人を育成する	心と体の健康を増進させるとともに、生徒の居場所づくり、きずなづくりを推進し、不登校の未然防止を図る。	生徒に寄り添う指導を意識するとともに外部機関と連携し、不登校生徒と家庭の支援を組織的に行う。	B A:53.3 B:46.7	関係機関との連携を図り、生徒と家庭を孤立させず支援することができた。関係機関との連携に向けては校内体制を整える必要を感じた。	学校だけで解決できないことが増えているため、関係機関との連携は今後も重視したい。そのためにも校内体制を整備していく。	B A:50.0 B:50.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「心と体の健康を増進させるとともに、生徒の居場所づくり、きずなづくりを推進し、不登校の未然防止を図る。」の具体的な方策で、関係機関との連携で吹中の先生方がご尽力されていることに心より感謝申し上げます。令和7年度は「生徒の居場所づくり、きずなづくり」視点を当て、仮説を立て検証して課題解決してはいかがでしょうか。</li> <li>・花いっぱい活動や落ち葉掃きは皆が協力しあって成し遂げる行事であり、植物を大切に、自然に目を向ける良い機会となるので、今後も継続していただきたい。</li> <li>・コロナで行事が少なくなったが、思い出作りのいい機会だと思います。もっとあってもいいかなと感じます。</li> <li>・「豊かな心の育成」の項目でも記しましたが、生徒会の活動が体育祭の行事の中でよく生きています。この生徒会の取り組みが豊かな心をベースとした「健やかな体の育成」につながっていると確信します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校生徒の別室支援員の配置が2年目を迎え、少しずつ成果を感じる事ができました。しかし不登校生徒が多数いることは事実です。不登校については一朝一夕に改善できることではなく、多くに大人が生徒の気持ちに寄り添いながら、生徒のペースに合わせることも大切です。今後も保護者、関係機関と連携し改善に努めてまいります。</li> <li>・学校行事での実行委員をはじめ生徒一人一人の行動には目を見張るものがありました。これは吹上中学校のすばらしいところです。この良さを今後も継続できるように生徒と協力して取り組んで参ります。</li> </ul>
		生徒会活動や行事を通して、生徒の主体的な活動や生徒の居場所づくり、きずなづくりを推進する。	B A:53.3 B:40.0 C: 6.7	花いっぱい活動や落ち葉掃きは欠席がちな生徒も参加しやすい活動になっている。	生徒の主体性を大切にするとともに、参加しやすい行事を設定するなど、生徒の居場所づくりを大切にします。	A A:83.3 B:16.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力テストの結果の分析では、「A」42.9%で「健やかな体の育成」の項目の中で「A」が少なく、「D」が7.1%あります。吹中の先生方の分析の通り「他の教員の関りが課題である」について先生方で仮説、検証してみたいかがでしょうか。</li> </ul>	
		体力テストの結果を分析し、体力向上に向けた教育環境を整える。	B A:42.9 B:50.0 D: 7.1	保健体育科を中心に取り組んでいる。他の教員の関りが課題である。	データの公開や課題の設定など、状況を周知していくとともに、体育的行事などにも生かすなど環境整備を進める。	B B:100		
の地推域進に根ざした学校づくり	地域に根ざし、地域から信頼される学校の推進	学校を地域に開き、地域の人材を活用しながら教育活動の充実を図る。	B A:40.0 B:53.3 C: 6.7	できる範囲で学校の教育活動を発信することができた。	学校のPRをどのように進めるかは今後の課題である。	B A:50.0 B:50.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタントマンによる交通安全教育はとても迫力がありびっくりしました。交通ルールの再確認や、車の死角、ヘルメット着用の大切さを学ぶことができて良かったです。</li> <li>・色々な人材を活用し、さらにためになる活動ができたらいいかかなと感じます。</li> <li>・1月18日に開催された、道徳授業地区公開講座の映画「荒野に希望の灯をともし」と谷津賀二映画監督による講演会「中村哲医師が私たちに遺したものはとてもすばらしかったです。事前に地域の回覧板で周知していただけたこともありがたか思いました。少し残念だったのは、保護者の方や地域の方の参加が少なかったため、この様なすばらしい映画は、もっと多くの方々に観てほしいと思いました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍以降、少しずつではありますが講師等を招聘しての講演会を実施する機会が増えました。一方、それらの取り組みを地域の方に公開する機会はまだ戻っていません。少しずつではありますが、多くの皆様に学校へ足を運んでいただけるよう、諸課題をクリアして参りたいと思えます。</li> </ul>

推進域に根ざした学校づくりの	(再掲) 地域に根ざし、地域から信頼される学校の推進	(再掲) 学校を地域に開き、地域の人材を活用しながら教育活動の充実を図る。	地域運営学校として、学校と地域の協働による開かれ、信頼される学校づくりを進める。安心安全な学校づくりをめざし、地域に協力を仰ぎながら、交通安全教室や青梅学、環境教育等、地域人材を活用して、特色ある教育活動を推進する。	B A:26.7 B:66.7 C: 6.6	初年度ということもあり地域運営学校としての運営には課題が残った。一方で地域やPTAの協力の下、落ち葉掃きや交通安全、青梅学など特色ある教育活動を進めることはできた。	学校運営協議会をさらに充実させ、学校と地域が協力して運営に当たれる組織にしている。また、これまで進めてきたPTA、地域と学校の取り組みは大切にしている。	B A:16.6 B:66.7 C:16.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域に根ざし、地域から信頼される学校の推進」の項目では、校長先生、副校長先生、諸先生方が一所懸命吹中をよりよくしようとする情報が学校だより、HP、行事、授業参観、本物に触れる会などでよく伝わってきます。ありがとうございます。</li> <li>・地域運営学校について先生方の「A」26.7%、「C」6.6%は「地域運営学校」についての理解、課題がよく伝わっていると思われます。「学校運営協議会」は地域が先生方の課題、仮説に対して支援し、一緒に協力して運営する会であり、これからも先生方と一緒に吹中生徒の課題解決に向けてよくわかるように取り組んでまいります。</li> <li>・地域運営学校としてもう少し地域と一緒に何かできるとよいと思います。実際のところ学校運営協議会の委員やPTAの人し関わることしかなく、もう少し工夫が必要だと思えます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度より地域運営学校として進めておりますが、手探り状態であることは否めません。ご指摘の通り「地域と一緒に何かを取り組む」機会を設けるため、学校運営協議会委員の皆様のお知恵を授けりながら取り組んで参ります。</li> </ul>
その他の重点	特別支援教育の推進	生徒一人一人の特性を理解した指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の特性について共通理解を図り指導につなげる。また指導方法について研修を行い、生徒指導に生かす。</li> <li>・教育相談活動を充実させるとともに、SCや外部機関と連携し、生徒の課題解決を図る。</li> </ul>	B A:46.7 B:53.3	特別に支援の必要な生徒については学校全体で課題解決を図れるよう取り組むことができた。一方、生徒の特性について教員間に認識の差があることは課題となった。	関係法令や合理的配慮について理解を深めるなど、特別に支援の必要な生徒に対して適切な対応ができるよう努める。	B A:16.7 B:83.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育大会での3組さんの活躍がすばらしかったです。</li> <li>・「特別支援教育の推進」の項目では分析結果にありますように、「特別に支援の必要な生徒については学校全体で課題解決を図れるよう取り組むことができた。」という評価ですばらしいと思います。しかし「A」46.7%、「B」53.3%ということは、吹中の先生方の分析通り「生徒の特性について教員間に認識の差」があると思われます。この点について先生方で解決の仮説を立てて検証していくことが求められます。</li> <li>・先生方も労働者であり、働き方改革の推進はとても大切なことです。しかしながら、定時退勤推進日を活用するために、業務を持ち帰るのはおかしなことです。教員数を増やすというのは難しいのかもしれませんが、もっと根本的な対策が求められると感じます。</li> <li>・「学校における働き方改革推進」では「A」が66.7%、「C.D」で20%。これは改革が推進されていることを実感するにはよい課題が見えていることを示しています。先生方でその課題解決に向けて仮説を立て検証するとともによりよい「働き方改革」になると確信します。期待しています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度複数の教科でときわ学級の生徒と通常学級の生徒と一緒に授業を受けています。また研修会を通して特別支援学級の生徒の課題について学ぶ機会を設けました。少しずつではありますが本校においてインクルーシブ教育に向けた動きを進めています。この活動を継続させることで教員のスキルの向上を目指します。</li> <li>・「働き方改革」として様々な手立てを講じています。特に部活動の地域移行については先が見通せないのが現状で、学校としても対応に苦慮しています。今後も業務の分散や効率化を進めて参ります。</li> </ul>
	学校における働き方改革の推進	校務改善を図り、生徒と向き合う時間を確保し、教員のライフワークバランスを整える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器の活用や、SSS等の支援員を活用することで校務改善を図り、生徒と向き合う時間を確保する。</li> <li>・校務を整理し、在校時間を適正にする意識を高めるとともに、定時退勤推奨日を積極的に活用する。</li> </ul>	B A:66.7 B:13.3 C:13.3 D: 6.7	SSSの協力が校務改善につながった。定時退勤推奨日を活用するなど在校時間は減らすことができた。一方、持ち帰り業務があることも事実である。	校務を整理するとともに、業務分担の適正化を図る。引き続きICT機器やSSSの活用を進め、校務の効率化を図る。	B A:33.3 B:66.7		

評価について(評価欄にある「A」「B」「C」「D」の数値の単位は「%」)

A : Aの評価者が80%以上でC以下の評価者が0名 ⇒ C以下の評価者がいた場合はB

Aの評価者が70%以上80%未満だが一番多い。かつA、B合計の評価者が90%を超え、C以下の評価者が0名 ⇒ C以下の評価者がいた場合はB

B : Aの評価者が70%未満だが一番多い。

Bの評価者が一番多く、かつA、Bの評価者が60%を超えている場合 ⇒ 60%を超えていない場合はC

C : Cの評価者が一番多い場合

D : Dの評価者が一番多い場合